

横浜で震災対策技術展、教訓を形に／神奈川

2013年2月8日

カナロコ(神奈川新聞 WEB)



地震や津波の被害を減らす最新の工法やシステムを集めた震災対策技術展が7日、横浜・みなとみらい21(MM21)地区のパシフィコ横浜で始まった。大人26人が入れる全長約6・5メートルの津波シェルターなどが関心を集めた＝写真。8日まで。入場無料。

主催者によると、約230の企業・団体が出展し、過去最大規模。津波避難や液状化対策など東日本大震災の教訓を形にしたアイデアが目立っている。

中でも注目されたシェルターは救命艇からエンジンを取り外したもので、自力で航行できないものの、転覆しないバランスと強度を両立。1艇約500万円だが、近くに高台のない静岡県沿岸の保育園が既に2艇導入したという。簡易トイレや非常食、建物の制震や天井落下の防止技術、豪雨や河川水位の監視・警報システムも紹介されている。